

あぶた福祉会

第35回

デイセンター
いちばんぼしから
〜再出発のときを迎えよう〜

7月1日から、わかさいも本舗株式会社工場内で利用者9名と職員1名が、箱折り作業を行うことになりました。移動のことやわかさいも本舗工場で今後箱折り作業をすることを伝えることで不安になったりするのはおもう思っていました、そんな心配は全くといっていい程なく、逆に大喜びをし、「いつから?」「楽しみだね」「頑張らなくっちゃ」と前向きな言葉が飛びました。



わかさいも本舗株式会社工場

びかいました。今回移るメンバーの中には、わかさいも泉工場内で作業をしていた利用者もいます。有珠山が噴火し、泉工場でもう働けなくなったと聞いた時の落胆が強く、また、いつかわかさいもの工場内で働きたいという希望を持っていただけにわかさいも本舗工場内で働くことができると思った時、本当に嬉しかったのだと思います。一生懸命新しい日課をメモ用紙に書き、何度も何度も確認をしてきました。確認の度に答える、とても良い笑顔、今まで見た中で一番の笑顔だったように感じました。

め、今回、わかさいも本舗工場に移ると聞いた時、自分は何の仕事をしたら良いのだろうと不安に思っていました。しかし、箱を折っている途中でズレないようにと、箱を固定する台を置くことで、今まで完成出来なかった箱折りができるようになりました。Tさんが「これで工場に行っても大丈夫だね」と大喜びしている姿を見て胸が熱くなりました。



製品に仕上がった「おいしいまんじゅう」

最初は慣れない場所、資材に戸惑いがあり、なかなかうまく行うことができませんでした。しかし、徐々に慣れ、一週間ほどでハネ品も少なくなり、スムーズに行うことができるようになりました。作業の手順を細分化し、箱を折る。まんじゅうを詰める。しおりを入れる。蓋をする。シールを貼るといった工程をそれぞれが担当し、繰り返し作業を行うことでミスが減ってきました。

工場の中で食品を扱うということ、新しい白衣と帽子を用意し、厳しい衛生基準をクリアできるよう、毎日身だしなみにも注意しています。また、商品にゴミが入っていないか、まんじゅうの向きは揃っているか、あらゆることに最大限の注意を払い、作業に取り組んでいます。今回の移動に伴い、利用者が快適に作業を行えるようにと、更衣室、休憩室、更に男女別のトイレを新たに増設していただきました。ロッカーやテレビ、冷蔵庫なども新しく用意していただき、休憩時間は快適に過ごせ、良い気分転換をすることができています。

工場の中という環境で作業技術習得だけではなく、挨拶などや一般就労に向けた実践の場として、とても貴重な場になっていると思えます。そして、再びわかさいもの工場の中で働きたいという利用者の思いが叶い、新たな出発をすることができたことは、支援する立場の者として何よりも嬉しいことであり、利用者の意欲をより一層高めてくれることと思えます。

(N・F)



まんじゅう詰め作業を行う利用者